



2019年10月
EIZO株式会社 代表取締役

奥盛祥隆

世界で一番良いものを作る！ 映像を通じた未来社会の実現に貢献します

次なる50年に向けて

1968年の創業以来「映像」に徹底してこだわり、「世界で一番良いものを作る」というDNAのもと成長を遂げてきたEIZOは、2018年3月、50周年を迎えました。次なる50年に向けて2018年度にスタートさせた第6次中期経営計画（～2020年度）では、新たな成長エンジンを創造すべく、新しいビジネスモデルを提示し、ここまで期待に違わぬ進捗を見せています。特にヘルスケア、航空管制や船舶などのV & Sの両部門は順調に推移し、規則改正の影響で市場が停滞傾向にあったアミューズメント部門にしても、2～3年のスパンで捉えれば想定通りの結果が見込めるはずで、すべては各セグメントにおいて圧倒的なナンバー1を見据え、チャレンジを続けてきた賜物に他なりません。また2018年3月にカーナシステム株式会社をEIZOグループに迎えたことは、技術開発・製品開発の幅を格段に広げるとともに、創業当時から事業の基盤を担ってきた映像の「表示」に「撮影」、「記録」および「配信」の技術を加えたトータルソリューションによる既存事業領域のさらなる拡大、新市場の創出に向けた大きな一歩となりました。

環境対応へのグローバルな評価

世の中のSDGs（持続可能な開発目標）への関心がますます高まり、企業はいま、事業活動を通じた社会課題の解決を当然の責務として求められています。「映像を通じた豊かな未来社会への貢献」を経営理念として掲げる当社は、事業活動のさまざまな面でSDGsの達成に貢献できるよう取り組んでおりますが、環境配慮については、ブラウン管の時代から電磁波の放出を制限するヨーロッパの厳しい環境基準を採用し、以降も新たな環境規格にはいち早く対応するなどして「環境に優しいEIZO」というグローバルな評価を確立し、強みに変えてきました。今後も100%自社開発・自社生産により実現する徹底した品質の保持と各種要求へのスピーディーな対応により、この評価に応えてまいります。さらに2019年には「2030年度までに事業活動で排出するCO₂の量を2017年度比50%にする」という目標を立てました。「Visualizing a better tomorrow for all」の mindset で、引き続き「人」にも「地球」にもよりよい未来の実現に寄与していきます。

社員には人生を楽しんで欲しい

言うまでもなく会社を支えるのは社員です。彼らがもっと人生を楽しみながら、生き生きと働いて欲しい。それを実現する社内環境を整備することはトップとしての義務です。これまで「Work Style Innovation」の名の下に種々の施策を推進してきました。それらの取組みは徐々に実を結びつつあり、たとえば一人ひとりの業務を見直し、改善を徹底したことで、生産性のアップを実現するとともに、残業時間の大幅な減少に繋がり、ワークライフバランスの向上を促しました。当社は出産・育休を経た女性社員の100%近くが復帰しており、結果的に男女の平均勤続年数がほぼ同数で推移しています。この実情は、働きやすい職場環境を裏付ける指標と捉えていいはずで、また、2020年4月からは社員の健康増進を見据えた施策の一環として社内全面禁煙および社外における就業時間内の禁煙にチャレンジします。もっとも、有給休暇の取得状況をはじめ、さらなる改善の余地はまだ残っており、会社の成長の根幹を成す社員が、今以上にしなやかに活躍できるシステムを構築していく必要性を感じています。

トランスフォーメーションがこれからの鍵

「Visual Technology Company」である当社の事業と連関するデジタルや5G、AI・IoTといった先端技術は、今後も加速度的な進化が予想されます。当社においても、トランスフォーメーション、いかに革新的に事業を創造していくかが鍵になると考えています。これからは能力を超えた領域への弛まぬ挑戦が、ビジネスの可能性を広げる重要なファクターとなるのは間違いありません。当社は創業以来「表示」の分野を突き進んできました。だからこそ、このままの延長線上ではいけないという「危機感」を抱くことができ、これが当社の進化をもたらしてきたといえます。2016年に10年後、つまり2025年のビジネスモデルをデザインする目的でスタートさせたプロジェクト「Design 2025」とリンクさせる形で「Beyond our Capabilities」を2019年のキーワードに挙げたのは、社会の変容のうねりの中で常に危機意識を持ち、トライし続ける意欲を高揚するためでもあります。

今日のEIZOがあるのは、100%自社開発・自社生産にこだわり、映像表示技術と徹底的に向き合いながら、会社自体を変革し、脈々と受け継がれてきた「世界で一番良いものをつくる」という企業文化を具現化してきた、言うならばEIZOにしかできないオペレーションを実直に続け

てきた結果であると確信しています。そうしたEIZOスピリットを引き続きグローバルレベルで共有し、継承していくことで更なるイノベーションを起こし、次なる50年も社会とともに持続可能な成長を続けていきます。

